

濱のつぶやき「成否の境目」

新しい事業構造を開発するビジネスモデルの構築も含め、さまざまな起業のご相談を受ける。先日、ある方とお話していて、非常に重要なことに気づいた。気づいてみると、それは余りにも当然のことであり、我ながら「今頃...」という気もするが。

起業アイデアが閃いた人は、何方も成功することを最初は確信しておられる。だが、実際に起業活動を経て成幸を果たしてゆく例と、そうでない場合との本質的な違いはどこに在るのか...。勿論、新事業への確信の程度が第一だが、それだけか？永年、疑問を持っていた。

その前に。実は、起業の現場には意外な法則性がある。「誰もが簡単に理解し賛同するアイデアは巧く行かない」のである。そのような事業アイデアは、さまざまな思惑を内に抱いた人々に寄って集られて進捗が大ブレするか、新規市場への参入者が多くなり、すぐに陳腐化する。逆に、最初は判りにくい位の方が、ライバルの登場を遅らせられる。

今では当たり前のように捉えられているさまざまな製品や、SNSなどのサービスも世の中に登場した当初、即その真価を理解した人は極少数でしかない。

ただ、問題がある。判りにくい事業には賛同者が極めて限られることだ。そして、その真価を伝えることに難儀する。事業の初期、周囲の無理解を跳ね除けるか、賛同を得る莫大な努力を払うか、姿勢の判れ目ともなる。

ところが、逆の見方をすると、その真価を判った者だけが、ライバルの居ない世界で版図を拡げられるのである。この意味は馬鹿にできない。新提案を伝えられたとき、その真価を理解できなければ、新プレイヤーには成れない。自分の低理解力によって、知らぬ間に自ら試験に落第するようなものかも知れない。

この気づきは、今後新規起業を志す方への激励の言葉の一つに加わることだろう。「貴方が産み出した真価は、判る人とだけ進めていけば良い。どんな大河も始めは一筋の流れから始まっている」と。



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆
していただいている川島さん
が「能登の夜市」の姉妹店を
開店されました。

上京された際、ご利用になっ
てみてください。

もちろん、川島さんご自身も
お店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00 ~ 24:00

金曜17:00 ~ 28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術
者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、
計画マンがどのようなことを考えているのか
などに触れて、少しでも業界を知っていた
できればと考えて編集しています。

2016/06

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2016/06

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

水意月



四万十・道の駅とおわにて
by hama

**負けるな
熊本！大分！**

**被災地応援に
九州へ観光・旅行を！**

寄稿『クライシスを笑いに代える!』

コンサルティング シオン代表 川口 整

レジリエンスは、心の力とか、精神力、動機づけを示す用語です。

『ハンディを持つ人でも、人間らしく生きられる適用能力は何だろうか? それは、身体や、内面的(精神性)の弱い面、病的な面だけを見ていたのでは決して分らない。人間のほんとうの力は何か?』

このような問いを背景に、生得的な人の粘り強さ、生きる意志や力・パワーに焦点を当てたレジリエンス研究が、1969年ごろから世界中で始まりました。とはいっても、いまだ聞きなれない、心理学的な用語です。自尊心、勇気や決断力などを包括した心の力と言えそうです。失意のどん底に突き落とされても、周囲の支えや時の流れで少しずつ立ち直っていく『人間の精神的な強さ』が、人には生まれつき備わっていて、その力がレジリエンスと言えます。

レジリエンスの成長は、「ストレスや逆境があってもへこたれない」「褒められたり叱られたりしながら自ら育てていく」など、極めて常識的な生きる気構えです。その証拠に、昔からのことわざに「七転び八起き」「失敗は成功のもと」「艱難、汝を玉す」があります。

その技術は、ストレスマネジメント、自殺予防、エンパワー・マネジメント、それにコミュニケーション力を向上させるさまざまなメソッドと多く重なります。グリーン(悲観)ケア、アングラー(怒り)マネジメントとも通底します。

注意すべきは、成長させるためにわざわざ困難や失敗させるなどの環境設定を通じて鍛えるのではありません。「自然体で育てていく」のです。ありのままの生活から、逆境や困難な状況に遭遇した場合の適応能力をどう育てるのが、テーマです。レジリエンスは、「躍動感」マネジメントなのです。

その基礎になるのが、リスクを感知できる能力、相手の痛みを認識できるコミュニケーション力です。好奇心を大切にし、向学心に連鎖すると自尊心(自尊心)を高めます。好奇心の旺盛さは、有効な友誼を増やし、品格を保つ刺激を受け、学びの人生をもたらします。

職場の同僚や部下・上司にも一人の人間として、それぞれの悩みがあります。それらがビジネス場に影を落とし、トラブルの根本原因になっている場合があります。誰にも気づかれず一人で抱え込むしかありません。そんな状況でも思考を切り換え、笑顔を失わず、目標に向かって人生を歩む強さをもっていることに気づいて欲しいと、レジリエンスは願っています。

迫るクライシス、困難やトラブル、災害にあっても、その状況を乗り越えていけば、心の標準となります。こんな経験は誰も一度や二度はあります。それが、へこたれない決断を行う心の標準です。それが、パラダイムされた努力を实践する連鎖です。

這い上がる時間は人によって違ってても、みんな必ず元通りに復元できます。日々の浮き沈みの位置を知れば、やがては視覚的に自分の心が読め、自己理解につながります。

よって、踏ん張る力を生み出す要因となります。思考を切り替え、脳みそをフル回転させれば、何らかのパワーが生み出されてきます。だれでも、その力はありません。なぜならば、「今までどうやって生きてきたのか?」との質問に、大方は答えられるはずだからです。

「標準よりも上になったなあ」と感じたその瞬間は「成長」を意識した瞬間です。それが、新たに形成された人生の平衡状態を示します。人間として、より深く優しくしなやかな強さを得てほしい。心の強さでありたくましくなると、人間力を高められる喜びなのです。心的外傷を負いながらも、「努力」「脱皮・移行」「努力」をもって成長することこそレジリエンスが託した最大の願いです。

川口方式は、レジリエンス中核を3つに大別し、3軸を定めました。

「しなやか」「はいあがる」「元気を喜ぶ」の三つに意味を整理しています。それぞれの中核に萌芽する軸を「考える」「Active」「笑える」とし、人間らしい強靭力・折れない心を育てるレジリエンス力の源とします。

「しなやか」は、実践知、楽観性、プラス思考、コミュニケーション能力、ユニーク、非攻撃型自己主張、つながる力(交わり)、人と相談する力、助けを求める力などです。

「はいあがる」は、能動の力、ストレスへの対処技術(スキル)、ストレスマネジメント、立ち直れる自信と見通し、へこたれない、夢や志・目標、生き抜くなどで

「元気を喜ぶ」は、笑える力と体の健康、基本的な生活習慣、感情の調整(抑制)、自分を理解する、自尊心を保つ、自己効力感(働き)、忍耐力、欲求不満耐性、豊富な直接体験(失敗からくじけないで学ぶ)、ユーモア力、明朗、などです。

レジリエンスは、個人の属性です。生得的なものや、乳幼児期に獲得する基本的な信頼感が根幹にあり、生まれつきや育つ環境が影響するといわれるものの、固定的な特性ではなく、むしろ社会的な環境とともに成長変化する力動的な特性です。ということ、大人になってもまだまだ育む機会はずっとあるはず

一生を通じて、生き抜く自分の持ち味・本領を発揮する喜びを育み、『生きる力』を信じていただく『誇り』を保つ機会を掴んで頂きたいのです。



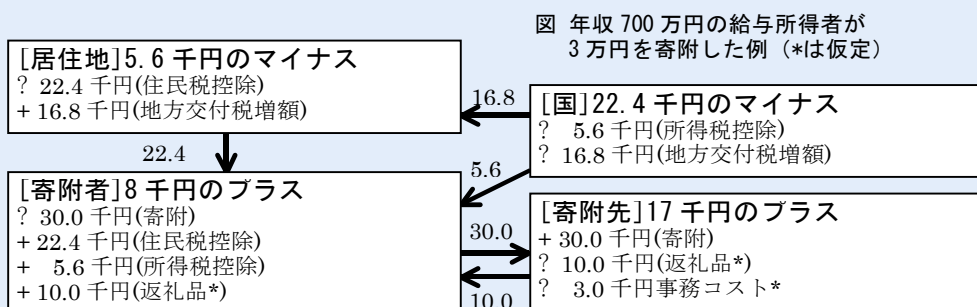
【プロフィール】

(かわぐち せい)日本能率協会
マネジメントセンター(JMA
M)パートナーコンサルタント、
日本絵手紙協会公認講師。階層
別・目的別社員研修講師。

電話 : 090-2531-1615
Mail : zion21@topaz.ocn.ne.jp
HP : <http://zion-sei.com/>

Aさん¹は、去年初めてふるさと納税を利用、大分県国東市へ100万円を寄附しその返礼品として35万円相当の一眼レフカメラをゲット。そして今年、ふるさと納税ポータルサイト「チョイス」を、初めから趣味目線で物色すると、なんと同市、66万円相当のカメラ²へと奮発されている。Aさんはすかさず「お気に入り」のボタンをクリック。2千円均一ショップに66万円の超お得な目玉商品を見つけた気分である。制度に対する批判も承知していたが、負担感の強い高額納税者がこれを利用しない手はないと思っていた。

さて、ふるさと納税は誰が得して誰が損するのだろうか。



寄附者は「返礼品の価額-2千円」、寄附先では「寄附額-返礼品の価額-事務コスト³」がそれぞれ得する分だ。一方で寄附者の居住地では「住民税控除額-地方交付税増額」、国は「所得税控除額+地方交付税増額」がそれぞれ減少し住民と国民の負担になる。ここで「地方交付税増額」が生じるのは、交付団体の場合、基準財政収入減少分の75%が交付税で補填されるためである。

ところで、返礼品は寄附の見返りではなく一時所得に該当するため、それを含むその年の一時所得が50万円を超えた場合、課税関係が生じ申告の必要がある⁴。少し意外だが、よく考えると寄附に対価なんてあるわけがない。

現在のふるさと納税制度が続く限り、自治体側は返礼品を競うチキンレース、納税者側は機会損失を避けるための仮のふるさと探しを、それぞれ続けるのが合理的である。それらをしていない自治体や納税者が、機敏な自治体や納税者に血税を合法的に吸い取られるのだ。しかも高額所得者に有利に働くため、所得の再分配機能の低下をも招く。ふるさと納税は、返礼品と切り離されることで寄附となり控除の正当性を担保するが、現実には不可分のものであり、その欺瞞にあざとく乗ったものが得する世界。明らかに制度の欠陥である。

注1:当コラムの昨年11月号に登場した架空の人物

注2:EOS 1DX Mark 。価格.comでは659千円が最安価格(16/5/16)

注3:事務コストは寄附先以外でも生じるがここでは略している

注4:国税庁「ふるさと寄附金を支出した者が地方公共団体から謝礼を受けた場合の課税関係」

リオデジャネイロオリンピックまであと100日を切りました!!!ですが、大統領の弾劾による政治不安や悪化する経済を起因とした犯罪の増加(特に凶悪なものが多いですね)。2年前のブラジルワールドカップよりも状況は悪化の一途のようです。はたして、海外からの観光客はやってくるのでしょうか。確か、リバウド(ブラジルの超有名サッカー選手)が「世界のみなさんブラジルには来ないように。」と言っていましたね。今政治・経済的・人の道徳倫理感が破綻しているこの国でオリンピックをすることの意義は何ぞや?と考えてしまうこの頃です。

さてよ、次4年後は東京オリンピック。では2020年に東京でオリンピックを開催することの意義ってなんですか?先日たまたま橋下前大阪市長と猪瀬前東京都知事がこのテーマをもとに討論する番組を見る機会がありました。現場を知らないコメンテーターが「庶民感覚・庶民目線」というしょうもない武器を使い「東京オリンピックは必要なのか?そんな金があるならば保育園問題、社会保障などに予算を割り振るべき」みたいな国会議員の票取みたいなことを言うわけです。内容は正直酔っぱらっていたのでよく覚えてません。ただ猪瀬さんは意義というよりは、元知事の石原さんがやってきたオリンピックPJをどう成功させたかという論点。橋下さんは、森委員長を筆頭とした組織委員会の問題や予算分配の論点。そもそもオリンピックを東京ですることの意義は?については触れられず。まあ、ろくでもないコメンテーターの発言だったので編集で割愛されたのかもしれませんが。

現在の日本もブラジルほど問題が顕在化してませんが、中国・北朝鮮・ロシアといった我儘で理不尽な隣国を相手とした極東圏内における安全保障・高齢化・少子化を起因とした社会保障とその財源調達・未だ見えてこない高い世界競争力を持つ次世代の日本の経営資源・そしていつ起こりうるかもしれない未曾有の自然災害・安心して生活を送るにあたり議論と行動を起こさねばならない課題は山積なんですよ。

ただ私はそんな難しい争点は置いて、子を持つ親の目線で、この子供達が「あー幸せな人生だったなあ」と思ってくれる国であったり世界であってほしいわけです。そのために、僕ら大人世代がすべきことに真剣に取り組んでいきたいわけです。その上でオリンピックってどんな意義があるのだろうか?と思うんですね。たとえば、前回の東京オリンピックは私は生まれてませんが、戦後から必死に立ち直ってきた日本国民に大きな自信と希望を与え、子供たちにはスポーツで世界と戦うことへの凄さやそこで競い合うことの夢みみたいなものを提供してくれたはず。つまりは戦後20年の日本に“世界にまた認められる国としての誇り”を与えることが意義だったのかもしれない。

では現代の日本および東京において開催されるオリンピックは何を与えてくれるのでしょうか?レガシーという名でごまかれそうな膨大な負の遺産?それとも、子供たちの笑顔?うーん、まだよくわかりませんが、この一極集中した東京である必要性がないのかもしれない。この4年間で僕もいろいろ考えてみたいと思います。

『富士の国から ~大魔神のたび~』オスプレイ搭乗記 平成28年5月12日
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

「溝口さん、オスプレイ乗ってみますか?」「え!乗せてくれるんかい?」

ここ小山町には陸上自衛隊東富士演習場がある。米海兵隊が、この演習場で離着陸訓練を行い陸上自衛隊が2018年までに17機導入予定になっているMV22オスプレイに乗せてくれると言うのだ。米軍のキャンプ富士司令の大佐からの招待だ。

招待状には「2012年の日本への配備以来、MV-22オスプレイは国防と災害救済の両面において同盟国への支援に変化をもたらしました。オスプレイは太平洋地域において広範囲に利用され、ごく最近では熊本の災害復旧の一助に使われました。高度な能力を有する当航空機の高い必要性ゆえ、作戦運用や訓練以外で使用されることは極めてまれであります。海兵隊司令部はこの航空機をさらに知っていただくために、私どもの密接な隣人である静岡県、山梨県の皆様へ、まれではありますが体験搭乗を許可いたしました。今回限りの機会となります。」と書かれていた。

これに対し日本側メディアのコメントは「安全性に対する地元の不安の払拭やヘリコプターに比べての高速性や運搬性、飛行距離の長さをアピールする狙いがある」であった。

初めて町の上を飛んで行ったときこそ騒ぎはしたものの、市街地の上を飛ばないようにしている配慮もあってか、最近はあまりその声も聞かない。

今回の招待は無論私にではなくて我が町小山町と同じく東富士演習場がある御殿場市、裾野市の首長そして知事が招待された。でも応じたのは小山町長だけだった。「首長の搭乗が安全性のアピールに利用されるかもしれない」が、乗らなかった人の弁だ。我が町長は「断る理由はない、乗ってみなくちゃわからない」との考えだ。それで席に余裕ができたのかわからないが、職員までお鉢が廻ってきた。私には断る理由どころか、乗ってみたい気持ちだけだ。「ななつ星IN九州」はお金と抽選に当たる運があれば誰でも乗れるが、オスプレイはそんなわけにはいかない。

5月10日の予定が天候を理由に12日に延期された。この日はもうこれ以上はないという好天。富士山もくっきり見えている。米軍キャンプ富士から飛ぶ、まずはその中に入るため、予め申し込んでおいた人間かの確認のため免許証の提示を求められた。



中に入るとそこはアメリカ。米軍の面々が通訳つきで迎えてくれた。

まずはオスプレイへの搭乗についての説明がフィンリー大佐からあった。質問を求められた。「写真撮影はオッケーか?」「非常時には何かボタンを押すと座席ごと外に放り出されパラシュートが開くのか?」といったトップガンの映画を想像した質問があったが、さすがにその仕掛けはない。大佐は笑顔でグッドクエッションと交わしていた。

オスプレイが待つ場所にマイクロバスで移動した。着いたその場所にはマスコミのカメラが待っていた。もちろん、小山町長の乗り込む姿を撮るためだ。

耳栓とヘルメットを渡され装着した。2つの回転翼が引き起こす下向きの気流に煽られる。後部のハッチが降ろされ、そのスロープを昇る。それが出入り口だ。壁の両側に12席ずつシートが無機質に並ぶ。旅客機のような客席が並ぶ姿ではない。天井は配線、配管がむき出しだ。四点支持のシートベルトで体を固める。町長は特別にコックピットの中に入った。後方のハッチを完全に閉めずに機体はゆりゆりと動きだし、ずっと浮き上がった。2つのローターは互いに外側に向けて回転している。そのローターは水平から徐々に傾き、機体は斜めに上空に上がっていく。最終的に水平になりプロペラ飛行機のように飛んでいく。最高速度は約555km/h。これに比べ同規模のヘリコプターは約315km/h。あっという間に駿河湾上に達していた。この上ないような上天気だから、戸田や土肥が良く見えた。旋回すると清水、三保の松原が視線の先にあった。軍用機だから、外がよく見えるようには設計されていない。そのため、今回は特別に後部ハッチを開けたままの飛行だった。高度が低いので、乗っている我々には気圧が低い、低温といった問題はなかった。その後、沼津市を眼下にベルナルブユッフェ美術館、裾野市の運動公園を過ぎて、あっという間にキャンプ富士に戻り、垂直に地上に降りていった。20分間の体験飛行は無事に終了した。

国境近くの島々が物騒になっている現実を考えると垂直離発着が可能なオスプレイの配備は十分に考えられることなんだろうと思うのである。

